

みどりの風

加茂市立石川小学校
学校だより 通算272号

(30年度 第21号)
平成31年3月1日

(URL) <http://www.ginzado.ne.jp/~k-iskwj/> (E-mail) k-iskwj@educet.plala.or.jp

校長 山 本 哲 哉

校時表の見直しをします

2020年度から新しい学習指導要領が完全実施されます。これまでのものと1番大きな違いは、「外国語(英語)が中学年で1コマ(1時間)、高学年で2コマ(2時間)実施」されることです。そのため、PTA総会でもお伝えしましたが、2019年度からの校時表(時間割)を見直すことにしました。基本的には3年生以上は1時間増えるということです。それに伴い、職員と学習タイムの有無のそれぞれのメリットやデメリットも検討してきました。大事にしたのは以下の2点です。



(1) 放課の時間を揃えます。

…いつも同じ時刻に帰ることで、放課後の生活をうまく送ることができます。

(2) 6時間だからといっても放課の時間を遅くしません。

…家の生活でもゆとりができます(教員も授業などの準備がしっかりできます)。

…学校以外の時間も大事にしてほしいと考えました。家族や地域と触れ合い、また時間をうまく使える力を伸ばせると考えます。

放課後の時間が確保されると、例えば子どもにとっては、遊びや家庭学習の時間、家族と触れ合う時間が増えます。放課後の時刻が同じになれば、計画的に生活を過ごすこともできます。例えば、習い事にも参加しやすくなります。この時期に新校時表の話をさせてもらったのは、4月からの放課後等の過ごし方(予定)をつくると考えたからです。次年度には10連休が予定されていることもあり、それにも対応できる新校時表で進めてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。



野球で「頭」を使うこと、とは…

私は、日々の勉強をしっかりとやる子どもになってほしいと願っています。自分の夢の実現、生活の充実、友達とのかかわり…。これらを支えるのは、日々の勉強(での「学び」)です。でも、この「学び」は、漢字をたくさん覚えることや計算の処理速度を上げることではありません。

私は小学6年生まで少年野球をしていました(教師になって監督[栃尾東小の若獅子というチーム]をし、そのチームは中越大会を勝ち上がり県大会出場も果たしました)。子どもの頃、最初、自分の運動能力や野球の技術を向上させることだけを考えていました。でも、練習をしているうちに、例えば自分が1塁ランナー(ノーアウト)で、打球がどこに飛んだら、自分がどう動くか瞬時に考え判断しなくてはならない、そういった内容が増えてきました。もちろん、打者のカウントも重要です。監督から出されたサインを行動に移すことが求められます。守備でも外野の間にボールが飛んできたとき、どっちの選手がとった方がいいか声を掛け合い、ボールを取った選手がどこに投げる(内野はどんな中継プレーをするか)かも求められます。私のチームの監督さんはある時こう言いました。「野球も最後はね、『頭』なんだよ」。

その「頭」というのは、計算や漢字といった「答えを出せる力」も含むのかもしれませんが、実はそれ以外の部分がとても大事です。「なぜそれがいいかを考える」「解く方法を見いだす」「判断する」「判断に応じて行動する」「さらにいい方法はないかを考える」「次(先)のことを想像する」ことなどです。これらはドリル・スキル学習だけでは身に付かないことです。だからどの教科でも、覚えること、理解すること、考えること、判断すること、書くこと、話し合うことなど、バランス良くやるのです。特に、これからは、学んだことを活用する力、解決の方策を探る力、仲間と協働していく力などが一層求められます。学校は、大人になった時(社会の中で生きていく時)に必要な大事な力を身に付けていく場です。

「生きていることは学び続けることだ」と言った人がいますが、「自分の考えや意見を持ち、どうやったらいいかを考え、人に説明し、決まったことを実行に移す力」をどうやったら伸ばしていけるか、また、「学ぼうとする子」をどうやって育てるかなど、学校でも精一杯考え、実践につなげてまいります。

